

第 27 回全国障害者スポーツ大会 オープン競技実施基本方針(案)

第 27 回全国障害者スポーツ大会において実施するオープン競技は、公益財団法人日本パラスポーツ協会の定める「全国障害者スポーツ大会開催基準要綱」及び「第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会開催基本方針」に基づき、次の方針により実施する。

1 実施目的

- (1) 「する」「みる」「ささえる」といった様々な形で、オープン競技に参加する県民が、スポーツへの関心を高め、行動につなげる契機とする。
- (2) 障がいのある人もない人もみんなでスポーツを通じた交流を拡大し、障がいへの理解を深め、多様性を尊重する共生社会づくりを目指す。

2 募集

広く障がい者の間にスポーツを普及する観点から有効と認められる競技について、県内の関係団体等へ公募する。

3 運営・経費

オープン競技の実施を希望する団体（以下「実施団体」という。）は、競技会開催にあたり必要な業務について、すべての運営を行う。

また、競技会開催に係る経費については、実施団体の負担とする。

4 実施競技の選択

実施競技は、公募を行い、次の事項について総合的に検討し、選択する。

- (1) 「全国障害者スポーツ大会競技規則」に定める個人競技及び団体競技以外の競技であること。
- (2) 主管する競技団体等に大会運営能力があること。
- (3) 県内に出場可能な選手・チームが存在すること。
- (4) 県外の選手・チームが出場できるルールが確立している競技であること。
- (5) 既存施設での開催が可能であること。
- (6) 原則として、第 27 回全国障害者スポーツ大会の開催期間内に実施が可能であること。

5 選定手順（予定）

- (1) 令和 6 年 7 月～ 関係団体等に対し、公募
- (2) 令和 6 年 12 月～ オープン競技（案）について審議・選定
- (3) 令和 7 年 2 月～ 中央主催者（文部科学省・日本パラスポーツ協会）と協議の上、決定

全国障害者スポーツ大会 オープン競技について

1 オープン競技先催県の実施状況

開催年	開催県	種 目（競技数）
2022年(令和4年)	栃木	スポーツウエルネス吹矢、卓球バレー、車椅子ダンス（3）
2023年(令和5年)	鹿児島	スポーツウエルネス吹矢、電動車椅子サッカー、ふうせんバレーボール（3）
2024年(令和6年)	佐賀	スポーツウエルネス吹矢、電動車椅子サッカー、ふうせんバレーボール、ソーシャルフットボール、パラサーフィン、卓球バレー、ウォーキングフットボール、ブラインドテニス（8）
2025年(令和7年)	滋賀	スポーツウエルネス吹矢、SOバドミントン、ゴールボール（3）
2026年(令和8年)	青森	ブラインドテニス、ファイン・ボール、デフボウリング（3）

2 デモンストレーションスポーツとの違い

種 類	目 的	参加者の 範 囲	行政の 財政負担
オープン競技	全国障害者スポーツ大会において実施 ・県民の障がい者スポーツへの理解促進 ・障がいのあるなしにかかわらず、スポーツを通じた交流の拡大と共生社会づくり	県内及び県外 在住者	なし
デモンストレーションスポーツ	国民スポーツ大会において実施（現在選定中） ・県民がスポーツの持つ楽しさや感動を享受 ・生涯を通じてスポーツに親しむきっかけづくり ・スポーツを通じた元気な長野県づくり	原則 県内在住者	あり※

※業務分担及び経費負担は、「第82回国民スポーツ大会 県及び会場地市町村の業務分担・経費負担基本方針」による。

3 オープン競技の例

スポーツウエルネス吹き矢（身体障がい）

座位、座位片麻痺、立位、立位片麻痺の4部門で行い、1ラウンド（3分以内）に5本の矢を吹き、規定のラウンドの合計点を競います。得点は的の中心から順に、7点、5点、3点、1点となります。

ふうせんバレーボール（身体障がい、知的障がい、精神障がい）

バドミントンコートを使用し、1チーム6人編成で、鈴を2個入れたふうせんを膨らませて競技を行います。障がいのある人とない人がチームを組み、チーム全員がボールに触れ、6回以上10回以内で相手コートに返球します。

卓球バレー（身体障がい、知的障がい、精神障がい）

1チーム6人が卓球台を囲むように全員椅子に座り（車椅子の方はそのまま車椅子使用）、卓球ボールをネットの下に通し、相手コートへ3打以内で打ち返します。